

施策マネジメントシート

施策名	行政評価 施策 体系	歴史・文化遺産の保存と活用	施策 統括課	生涯学習課	氏名	津田 智宏
政策名		ひとを育てる・守る	施策 関係課			

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ・市内で発掘された歴史・文化遺産	➔
意図(対象をどう変えるのか) ・保護され、活用される	➔

対象指標 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
市内で発掘された歴史・文化遺産の数	件	
成果指標 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
指定・登録されている文化財の数	件	
過去1年間で市内の歴史・文化遺産に訪れたことがある市民の割合	%	
市内の歴史・文化遺産を地域の資源として活用されていると思う市民の割合	%	

2 第2次基本計画期間(平成23～27年度)内における取組内容

体系	具体的な取組内容
文化財の調査と保存、伝統文化の継承	市内の指定・登録文化財や市所有の文化財を、市民の財産として保存していきます。獅子舞等の貴重な伝統民俗芸能を保存、継承できるように支援し、くにたち郷土文化館や古民家等を利用した伝統行事、年中行事を実施し、継承します。
文化財の活用	くにたち郷土文化館や東京都と連携した事業を実施し、文化財を活用します。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値

		単位	数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
対象指標	ア	件	見込み値										
			実績値	92	96	99	102	106	106	109	111	113	
		イ	見込み値										
			実績値										
ウ	件	見込み値											
		実績値											
エ	件	見込み値											
		実績値											
成果指標	ア	件	成り行き値				106	109	112	115	118	121	
			目標値				106	111	116	121	126	131	
			実績値	92	96	99	102	106	106	109	111	113	
	基本計画における 施策の目標設定の根拠			文化財保護審議会の方針により、毎年5件程度の指定・登録を目指すこととしました。									
	イ	%	成り行き値				60.2	60.2	60.2	60.2	60.2	60.2	60.2
			目標値				60.2	60.8	61.6	62.4	63.2	64.0	
			実績値	60.7		59.7	64.0	63.1	59.8	64.1	53.1	61.4	
	基本計画における 施策の目標設定の根拠			第2回国立市市民意識調査において、歴史・文化遺産があることを知らない市民の割合が6.2%であり、知らない市民に訪れてもらうことを目指して、6.2%の6割である約4%の向上を目標としました。									
	ウ	%	成り行き値				32.1	32.1	32.1	32.1	32.1	32.1	32.1
			目標値				32.2	32.7	33.2	33.7	34.2	35.0	
			実績値	30.1		32.1	31.7	31.6	30.0	32.7	27.9	37.4	
	基本計画における 施策の目標設定の根拠			第2回国立市市民意識調査において、10年以上国立市に居住している市民のうち歴史・文化遺産が地域の資源として活用されていると思う市民の割合が35.0%であったことから、市民全体をこの水準にまで高めることを目標としました。									
エ	件	成り行き値											
		目標値											
		実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠													
オ	件	成り行き値											
		目標値											
		実績値											
基本計画における 施策の目標設定の根拠													
事務事業数		本数	18	16	15	11	12	10	5	5	5		
施策 コスト	事業 費	国庫支出金	千円	850	700	700	700	1,950	950	700	700	800	
		都道府県支出金	千円	445	370	370	370	995	495	370	370	874	
		地方債	千円									47,700	
		その他	千円									0	
	事業費計 (A)		千円	57,005	56,013	91,139	74,547	124,043	81,071	87,051	168,503	85,827	
	延べ業務時間	時間	1,942	1,770	2,026	1,632	6,532	6,470	6,591	7,393	8,218		
人件 費	人件費計 (B)	千円	9,710	8,700	10,130	8,160	16,560	16,250	16,851	19,728	19,782		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	66,715	64,713	101,269	82,707	140,603	97,321	103,902	188,231	105,609		

4 施策の現状

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた貴重な財産であり、市民のかけがえのない文化遺産、歴史的財産として、次代の人々に引き継いでいかなければならない。このため、価値ある文化財の適切な保護や保存を進め、十分に活用することなどにより、文化財保護の意識をより多くの市民に広げていく必要がある。また、文化財保護の意識の高揚を図るため、市内に存在する貴重な文化財を保護し、後世に伝えるとともに、PR活動に努め、文化財に親しみを持つ市民を育てていく必要もある。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

「指定・登録された文化財の解説板を設置すべき」、「本調査以外の緊急調査の成果も、発掘調査報告書として年度ごとに発行すべき」、「いにしえより伝わる道路名や地名を後世に伝承するため看板を設置すべき」との意見がある。
JR中央線連続立体交差事業に伴い解体され、現在は部材を保管している旧国立駅舎については、平成27年第2回定例会において、早期再築に関する陳情が採択されている。
本田家住宅及び薬医門の適切な保護についての要望が出されている。

5 27年度の評価結果

(1) 施策の取組状況

27年度行政経営方針	取組状況
	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに文化財指定1件と文化財登録1件を行った。 ・市内旧家の本田家に関する企画展を郷土文化館で開催し、関連講演会を含めて、延べ2,497名の参加があった。 ・本田家住宅主屋の資料調査結果を取りまとめた。 ・郷土文化館の入館者数は、前年度と比べ微増の20,373名となった。また、古民家の見学者数は、前年度と比べ微減の11,814名となった。 ・都の文化財ウィークにあわせ、国指定文化財等の公開事業や国登録文化財「本田家住宅主屋・薬医門」の講演会を開催した。 ・国立市観光まちづくり協会が「くにたち観光案内人」としてガイドを行った。 ・平成24年度に緑川東遺跡で出土した大型石棒については、PRを図るため立川市、横浜市へ貸出を実施した。

(2) 施策の成果実績把握と評価

成果指標目標達成度(目標値と実績値との比較)

成果指標ア { 指定・登録されている文化財の数 }
 27年度目標値を達成 未達成 (26年度実績値と比較し成果向上・維持 26年度実績値と比較し成果低下)

成果指標イ { 過去1年間で市内の歴史・文化遺産に訪れたことがある市民の割合 }
 27年度目標値を達成 未達成 (26年度実績値と比較し成果向上・維持 26年度実績値と比較し成果低下)

成果指標ウ { 市内の歴史・文化遺産を地域の資源として活用されていると思う市民の割合 }
 27年度目標値を達成 未達成 (26年度実績値と比較し成果向上・維持 26年度実績値と比較し成果低下)

成果指標エ { }
 27年度目標値を達成 未達成 (26年度実績値と比較し成果向上・維持 26年度実績値と比較し成果低下)

成果指標オ { }
 27年度目標値を達成 未達成 (26年度実績値と比較し成果向上・維持 26年度実績値と比較し成果低下)

成果指標カ { }
 27年度目標値を達成 未達成 (26年度実績値と比較し成果向上・維持 26年度実績値と比較し成果低下)

時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)
 B:成果がどちらかと言えば向上した

他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い) ~ E(かなり低い)
 B:他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である

背景として考えられること
 アについては、文化財指定並びに文化財登録を新たに1件行った。
 イ及びウについては、城山さとの家の新築工事が終わり、ウォーキング等散策者が増えたこと、郷土文化館所蔵資料も含めた図書館システムの稼働、文化財関連の様々な事業を通じて、PRできたものと考えられる。
 地域資源に応じた企画展等の開催や情報発信を積極的に行った効果と考えられる。
 多摩川によって作られた河岸段丘等、地形的に恵まれている。

(3) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)

・市内の歴史・文化遺産への訪問、歴史・文化遺産を地域の資源として活用されていると思う市民の割合が増加し、文化財に親しみを持つ市民が増えた。
 ・緑川東遺跡の大型石棒をはじめとした貴重な文化財を積極的に発信することで、地域資源の価値を向上させることができた。
 ・国立市観光まちづくり協会が、「くにたち観光案内人」としてガイドを行う等の取り組みが引き続き行われている。
 ・文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた貴重な財産であり、市民のかけがえのない文化遺産、歴史的財産として、次代の人々に引き継いでいかなければならない。
 ・本田家住宅主屋の資料調査結果を取りまとめ、広く本田家の文化財価値を高めるためのPR資料を作成することができた。今後は、主屋と同様に貴重な資料が存在すると想定されている本田家の蔵の資料調査を実施していく。

6 施策の課題・今後の方向性

・多くの市民に文化財に対する関心を持ってもらう努力をし、更なる文化財の保存・活用を図る必要がある。
 ・旧国立駅舎や本田家住宅をはじめとした貴重な歴史的文化的遺産については、適切な保護や活用を検討していく必要がある。
 ・文化財の活用について郷土文化館と連絡を密にし、引き続き、連携を図っていく必要がある。
 ・市を観光面として売り出す際のブランドの一つとなりうるので、引き続き、他部署との連携を増やすことで成果を向上させることができると考えられる。